
目次

【1】 --- 教員コラム 19 弾 第 4 回

「医学の学びと読書の変遷ーガイドライン時代に考える」

消化器外科 / 塩崎敦

【2】 --- 電子ジャーナルの大量ダウンロードにより、

和雑誌のアクセスが一時停止されました

【3】 --- 貴重書庫から、新宮涼庭先生関連書籍をピックアップ

【4】 --- [予告] 令和 7 年度第 4 回企画展示<ミステリの種>展

[Book Review] ・ ・ ・ 編集後記にかえて

【1】 --- 教員コラム 19 弾 第 4 回

「医学の学びと読書の変遷ーガイドライン時代に考える」

消化器外科 / 塩崎敦

20 年以上前には、疾患の標準的診断・治療を学ぶためには、膨大な量の書籍や文献を読む必要があったように思います。しかも各医学書は著者ごとに主張が微妙に異なり、相反する内容が示されていることも珍しくありませんでした。学生や若手医師は其中で迷いながらも、多くの医学書を読み比べ、自分なりに「標準」を見極めていったように思います。

時代は移り、現在では各領域に診療ガイドラインが整備され、必要な情報を誰もが容易に手にできるようになりました。全国どこでもほぼ同じ方針に基づいて治療が行われるという統一性は、医療の質を保つうえで大きな利点です。さらに、エビデンスに裏づけられた標準的な診療が明示されることで、学びの効率は飛躍的に高まりました。必要な知識を短時間で把握し、そのまま臨床の現場に生かせるという点で、この変化は計り知れない恩

恵といえるでしょう。

しかし一方で、ガイドラインは結論や指針を先に提示してくれるがゆえに、その背景や議論の過程に目を向ける機会が減ってしまう懸念もあります。かつてのように複数の書籍を比較し、自分なりに解釈を組み立てる訓練は、臨床の不確実さと向き合う力を養ってくれていたようにも思えます。ガイドラインがすべての症例に当てはまるわけではなく、患者ごとに最も望ましい治療方針が異なることも多い医療の現場では、この「考える力」は今も欠かせません。

図書館は、こうした背景をたどる学びにこそ力を発揮する場所だと感じます。根拠となった論文や古典的教科書、過去の名著や議論の記録をたどることができるのは、知を蓄積する場所ならではの魅力です。短時間で答えを求める時代だからこそ、あえて時間をかけて知識を深く掘り下げる作業は、広い視野と柔軟な思考を育てるように思います。

医学も読書も、単に「結論」を知るだけでは十分ではありません。その周囲にある多様な視点や背景を理解することで、より確かな理解に近づくことができます。ガイドラインは強力で頼もしい道具ですが、それを支える膨大な知識に触れることこそ、今の時代にふさわしい学びであり、知識探求の醍醐味だと感じます。

※過去の教員コラムは、[こちら](#)です。

【2】 --- 電子ジャーナルの大量ダウンロードにより、

和雑誌のアクセスが一時停止されました

.....

7月以降、このメール News でも注意喚起して参りましたが、電子ジャーナル『MB Orthopaedics』の連続的なダウンロードが繰り返されるため、9/5(金)～8(月)にわたり、提供元メディカルオンラインから契約中の和雑誌全誌への学認認証によるアクセスが停止されました。学内ネットワークからのアクセスは継続していましたが、この間、必要な文献が読めなかった皆様には、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

その後、大量ダウンロードの該当者が特定されたため、当人に事実確認と注意を行い、再発防止を約束した上で、提供元より、学認認証によるアクセスを再開していただきました。

一個人の違反行為が、大学全体への利用停止措置となります。電子ジャーナルを利用す

る際は、利用規約・利用条件などを遵守し、適正に利用をお願いします。

【3】 --- 貴重書庫から、新宮涼庭先生関連書籍をピックアップ

.....

図書館貴重書庫には、創立以来 150 年以上にわたる歴史的価値のある書籍が保存されています。これらを後世に引き継ぐため、我々司書も、保存環境の整備、デジタル化など維持管理に取り組んでいます。

そんな貴重資料からいくつかをピックアップして、「[京都広小路通信](#)」サイトに順次掲載します。今回は、江戸時代の蘭方医である新宮涼庭（しんぐう・りょうてい）先生に関する書籍を紹介します。「順正書院」を創立し、本学誕生の源流を生み出した先生の似顔絵や温泉紀行等、どうぞご覧ください。

”[「医は仁術なり」、医師の理念を説いた江戸時代の蘭方医・新宮涼庭の精神にふれる](#)”

【4】 --- [予告] 令和7年度第4回企画展示<ミステリの種>展

.....

■開催期間：2025/9/25(木) ～10/8(水)

■場所：附属図書館カウンター前

■展示資料一覧：[こちら](#)

■チラシ：[こちら](#)

推理小説家 貫井徳郎特別講演会と連携した「ミステリの種」展。ミステリ小説に欠かせない、毒物やトリック、司法解剖…執筆のヒントになりそうな医学書を集めます。心理学、毒性学、薬理学、細菌学、公衆衛生学、法医学などなど、医学図書館ならではのミステリの種（ネタ）と共に、貫井徳郎先生の著書や「ミステリーの書き方」等を展示します。ぜひ手に取ってご覧ください。

【連携企画】[推理作家 貫井徳郎氏特別講演会「執筆は趣味」](#)

2025/10/2(木)15:00 @図書館ホール

申込フォーム <https://forms.gle/bHbT5QTmUoRrSfR36>

[Book Review]・・・編集後記にかえて

.....

貫井徳郎著『不等辺五角形』（東京創元社 2025）

タイのインターナショナルスクールで同級生だった男女5人組。彼等が久しぶりに集まった葉山の別荘で事件が起こる。加害者と被害者を除く3人が弁護士に語る内容は、嘘や憶測を交えて5人の人間性と複雑な人間関係を詳らかにしていく...

著者得意の叙述トリックが冴え渡るミステリであるとともに、令和の価値観に揺れ動く人間関係、そして生き方と人の心についての物語。

読了後、ある登場人物の余りに真摯な想いにしばし呆然となりました。その相手の冷酷さにも。タイトルもシンプルな装丁も内容にピッタリ。10/2(木)に開催される講演会「執筆は趣味」では本作執筆の裏話を含む、読書好きなら誰でも知りたいミステリ作家の執筆活動について、詳しくお伺い出来ると今からわくわくしています。(Y.S)

(京都市中央図書館所蔵「[K-Libnet](#)」で貸出が可能です)

KPUM Library Booklog : <https://booklog.jp/users/kpumlib>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/448802923X>

.....

図書館メール News552 号 2025.9.18 発行（隔週木曜日発行）

編集・発行：京都府立医科大学附属図書館

library@koto.kpu-m.ac.jp

<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

.....

（図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓）

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/web/service/mailnews.html>